こーひーぶれいく

栗よりうまい十三里

岡戸　幸子
Okado Sachiko

近年日本の夏は，猛暑，酷暑，○○年に一度の，といった言葉選びが難しくなる気候となっておりますが，皆さまはいかがお過ごしでしょうか。真夏に相応しからぬタイトルを付け恐縮ですが，今回は，町歩きに適した季節となった頃にいかがかと，生まれ育った埼玉県川越市の観光名所を紹介させていただこうと思います。

川越市は 2022 年に市制 100 周年を迎えました。江戸時代には川越藩の城下町として栄え，「小江戸」（こえど）とも呼ばれています。川越藩は江戸幕府の北の守りとして重要視され，藩主には「知恵伊豆」と呼ばれた松平信綱，柳沢吉保（アイソトープ協会駒込本部近くの「六義園」を造園したことでも知られています）等，代々幕府の重臣がついておりました。そのため城跡・寺社等の歴史的建造物が多く，戦災を免れたこともあり古い町並みを残しております。また都心から 1 時間程度のアクセスで日帰り観光が楽しめるため，最近は外国人旅行者も多く，年間 700 万人もの観光客が訪れる観光都市となっています。

一番賑わう観光エリアは，タイムスリップしたかのような「蔵造りの町並み」周辺です。明治 26（1893）年の川越大火後に，耐火建築である「蔵造り」が採用され今の町並みとなりました。近くには江戸時代初期の寛永年間（1624～44 年）に最初に建てられた「時の鐘」（現存の鐘楼は川越大火後に再建されたもの）があり，今でも 1 日に 4 回，時を告げ，町を見守っています。特に夕暮れ時のシルエットは美しいものです。また菓子屋横丁と呼ばれる小道もあり，団子や麩菓子，飴等昔ながらの味を楽しむことができます。

歴史好きにお勧めするエリアは「川越城本丸御殿」周辺です。川越城は長禄元（1457）年に，太田道真・道灌親子が築いたと言われています。現存する建物は嘉永元（1848）年に建てられたもので，本丸御殿の一部として玄関・大広間・家老詰所が残っています。近くには川越の歴史資料等を展示する市立博物館や川越にゆかりのある画家の作品を中心に展示する市立美術館，そして縁結びの神様で有名な川越氷川神社があります。7～9 月には境内に風鈴回廊が設けられ，音と色で涼を感じさせてくれます。期間中はライトアップも実施され，昼とは違った幻想的な光景が見られます。

氷川神社といえば，川越まつりです。毎年 10 月の第 3 日曜日とその前日に開催される川越まつりは，氷川神社の「例大祭」を根源としており，1648 年に藩主であった松平信綱が氷川祭礼を奨励したことに始まると言われています。2016 年には「川越氷川祭の山車行事」として，ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に登録されました。川越まつりの山車は各町内が保有し，現在は 29 台あり，祭りの当日には賑やかな江戸囃子と共に蔵造りの町並みに曳き出されます。山車のデザインや最上段を飾る人形（御神像）は町内ごとに異なりますので，見比べながら江戸祭礼の情緒を堪能できるかと思います。

最後にタイトルの「十三里」とはサツマイモのことで「焼き芋は焼き栗の味を上回るほどおいしい」という意味だそうです。「栗（九里）より（四里）うまい十三里」つまり「九里＋四里＝十三里」という洒落です。これが江戸っ子にうけて，当時焼き芋が大変人気だったとのことです。また「十三里」には，古くからサツマイモの産地であった川越まで，江戸の日本橋から十三里（約 52 km）あったからだという説もあるそうです。現在も川越はサツマイモの産地で，サツマイモを使ったスイーツが数多くあります。個人的にはシンプルなつぼ焼きが好みですが，スイーツを食べ比べ，歴史に想いを馳せながら，川越の町を楽しんでいただけますと幸いです。

（(公社)日本アイソトープ協会）